## 令和2年度 宮の原小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

## 1 教育目標(目指す児童像含む)

基本目標 豊かな人間性をもち、主体的・創造的に生きていくことができる健康でたくましい子どもの育成 目指す子ども像 「本気で学べ」「元気に遊べ」「正しく生きよ」「喜んで働く」

## 2 学校経営の理念(目指す学校像含む)

児童一人一人が自分のよさや可能性を伸ばせる学校,教職員が働きがいを実感できる学校,家庭や地域との連携・協働による地域とともにある学校づくりを目指す。

「学びのある学校」 豊かな体験を通して、自信をもち自立した子どもを育む学校

「活気ある学校」 心身ともに健康で、のびやかな子どもを育む学校

「笑顔いっぱいの学校」 友達と活動し、ともに生きる喜びを感じる学校

「地域とともにある学校」 家庭, 地域と協働して子どもを育む, 地域に開かれた学校

- 3 学校経営の方針(中期的視点) ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に〇印を付ける。
  - (1) 知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育む教育を実践し、カリキュラムマネジメントにより学習効果の向上を図るとともに、本年度の重点目標について学校・保護者・地域が共有しながら特色ある教育活動「宮小けやきプラン2020」を推進する。
  - (2) 全ての教職員が学校経営の理念に基づき目標を共有化し、自己研鑽に努めながら児童一人一人を大切にした 教育活動を実践する。また、教職員が生き生きと健康で働きがいを実感できるよう、働き方改革の視点に立ち、 リフレッシュウィーク等の勤務時間を意識した働き方や校務の重点化とスリム化を目指す。
  - (3) 地域協議会と連携しながら、地域教育力の積極的な活用と人材発掘、地域行事との連携、積極的な情報発信と学校公開等を通して家庭・地域と一体となった地域に根差した取組の充実を図り、地域とともにある学校づくりに努める。一条地域学校園(小中 4 校)の連携強化により、積極的な情報共有と児童生徒の実態に即した取組を通して小中一貫教育を推進する。
  - (4) 〇小中一貫教育の推進 小中4校の連携強化(積極的な情報共有)と児童生徒の実態に即した取組の推進

[一条地域学校園教育ビジョン]基本をしっかり身に付け,地域に生きる子どもを育む一条地域学校園

## 4 教育課程編成の方針

- (1) 改正された教育基本法,学校教育法及び同施行規則,新小学校学習指導要領の示すところに従うとともに,「栃木県教育振興基本計画 2020」及び「第2次宇都宮市学校教育スンダード」の趣旨に基づきながら,本校児童の実態を踏まえ,教育目標の具現化が図られるよう調和と統一のある教育課程を編成する。
- (2) 本年度の経営方針、努力点や具体策、前年度活動の評価等を踏まえ、地域社会の実情・児童の心身の発達 段階や特性・子どもの育成にかかわる多くの関係者の願いを考慮し、知・徳・体のバランスのとれた「生き る力」の育成を目指した特色ある教育活動「宮小けやきプラン2020」を推進する。
- 5 今年度の重点目標(短期的視点)※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に〇印を付ける。

## 【学校運営】

- ・「本気で学べ」「元気に遊べ」「正しく生きよ」「喜んで働く」を目指す子ども像として、全教職員が協働し活気ある学校づくりに努め「宮小けやきプラン2020」を推進
  - ○「小中一貫教育と地域学校園」の取り組みの推進

## 【学習指導】

・自分の思いや考えをもち、進んで伝え合い、学び合う児童の育成

#### 【児童生徒指導】

- ・人とのかかわりを通して、きまりを守ったり人を思いやったりすることができる児童の育成
- 【健康(耐力・保健・食・安全)】
  - ・自らの健康と安全に関心をもち、進んで体力づくりに励む児童の育成

## 6 自己評価 (評価項目のAは市共通, Bは学校独自を示す。)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。 ※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

	※「王/写具体的/家取組」の方向性には、A拡充 B継続 C補小・廃止、を自己評価時に記入する。								
項目	評価項目	主な具体的な取組	向性	評価					
	A 1 に値にいいるのである。 「は組】はとる組定上 はっしいできるが、いいできるが、いいできる。 「は値にないのできなが、いいできなが、いいできなが、いいできなが、いいできなが、いいでです。 「はは、これでは、これでできなが、いいできなが、できます。 「はは、これでは、これでできます。」のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでできます。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	・学習意欲を記している。 ・学の大きは、一学である。 ・学の大きなでは、一学である。 ・学の大きでは、一学である。 ・学の大きでは、一学である。 ・学の大きでは、一学では、一学では、一学では、一学では、一学では、一学では、一学では、一学	E B B	【達成状況】 児童の肯定的回答 94.0% ・学びに向かう姿勢や環境が整ってきた。 ・魅力あるようになび提示の仕方を工夫し、学びあいを充実させてきた。 ・魅力ある、学びあいを充実させてきた。 【次年度の方針】・個人の名と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、					
<u> </u>	LJ		<u>'</u>	内容や提示の仕方を工夫していく。					

A 4 児童は、時と場に応 じたあいさつをして いる。

【数値指標】全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」

- ⇒児童の肯定的回答 90%以上
- A 5 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。

【数値指標】全体アンケー

トの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」

⇒児童の肯定的回答 85%

A6 児童は、健康や安全 に気を付けて生活し ている。

【数値指標】全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」

⇒児童の肯定的回答 8.5%

- ・ 小中学校・家庭・地域と連携した「み やのはらあいさつ運動」を継続し、あ いさつの定着を図る。(「みやのはらあ いさつの日」毎月1日)
- 教職員が率先してあいさつをする。
- ・ 道徳や特別活動を中心に、発達段階 B に応じて、時間や相手に応じたあいさ つを具体的に指導する。
- ・ 児童が主体的に参加できる「あいさ つ運動」を実施し、意識を高めるよう にする。
- 学習や活動において、目標を明確に し、ゴールを意識させることで、児童 が見通しをもって努力し続けること ができるようにする。
- ・ キャリアファイル等を活用し、自分 のよさを伸ばしたり、苦手を克服した りするために自分なりの目標を設定 して努力できるように励ます。
- ・ 学び合う場や協力し合う場を意図的 に設定し、共に高め合い、励まし合い ながら取り組むことができるように する。
- ・ 受容的な態度や温かいコメントを心 掛け、児童が学びたくなる教室環境を 整える
- 「食育だより」や「保健だより」を 発行して、児童や保護者に健康につい ての意識付けを図る。
- ・ 児童委員会を中心にイベントを行ったり、養護教諭や学校栄養職員が保健 指導や食育指導に積極的に関わった りすることにより、健康について身近 に考える機会を増やす。
- ・ 月1回の登校指導や,月1回の下校 指導,また,定期的な班長による振り 返りを行い,継続的に安全な登下校の 指導を行う。
- ・ 地震・火災、不審者対応、竜巻等あらゆる災害を想定した避難訓練を行い、安全な生活の意識付けを図る。

## 【達成状況】

児童の肯定的回答 96.2%

・児童会によるあいさつ運動により、児童の あいさつに対する意識は高まっている。

## 【次年度の方針】

・今年度実施したあいさつ運動を継続すると共に、さらにあいさつに多くの児童が関わることのできるような活動を工夫する。 ・教職員も率先してあいさつをしながら、より意識づけを図っていく。

## 【達成状況】

児童の肯定的回答 92.7%

- ・目標を明確にし、ゴールを意識させることで、達成感を積み重ねてきた。
- ・キャリアファイルの活用で、学校と家庭の 両面から児童を励ますことができた。
- ・共に高め合い、励まし合える活動を工夫してきた。

## 【次年度の方針】

В

・スモールステップの目標設定を意識し、それを一つ一つクリアしていくことで、さらなる達成感や成就感を味わわせていく。

## 【達成状況】

児童の肯定的回答 93.3%

- ・児童委員会の活動を工夫したり、養護教諭 や学校栄養職員による保健指導や食育指導 をしたりすることにより、健康について身近に 考える機会を増やすことができた。
- ・交通安全教室や災害時に自分の身を守る 方法の訓練を実施し、児童への意識付けを 図ってきた。

#### 【次年度の方針】

・雨の日の過ごし方や、廊下の歩行など、校内での安全な過ごし方についても目を向けさせ、安全に対する意識を高めていく。

A 7	児童は、夢や目標を
	もって、社会に貢献で
	きるよう努力してい
	る。

【数値指標】全体アンケー トの「私は、夢や目標に向 かってあきらめずに, 粘り 強く取り組んでいる。」

⇒児童の肯定的回答 85%

- 学問、スポーツ、芸術など様々な分 野で活躍している人の生き方を紹介 し、目を向けさせ、夢や目標をもたせ る。
- 委員会活動,清掃活動,学級での当 番や係活動などを通して, 働くことの喜 びや役割を果たす大切さやを味わわせ る。
- キャリアファイルを活用し、自分の 目標を設定したり、努力を振り返った りすることができるようにする。

## 【次年度の方針】

ようにした。

В

Α

В

【達成状況】

・様々な人の生き方について, 時期や機会を とらえてたくさん発信し、積極的にふれさ せていく。

・道徳や国語、社会科等の教材、日常の話題

などから、様々な分野で活躍している人の

生き方に目を向けさせ考える機会を増やす

・自分の役割だけでなく、ボランティア活動 にも目を向けられるような声かけや指導を 心掛けていく。

## A8 児童は、英語を使っ てコミュニケーショ ンしている。

【数値指標】全体アンケー トの「児童は、外国語活動 の授業やALTとの交流の際 に、英語を使ってコミュニ ケーションしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上

- スモールトークを積極的に活用し、 教師とALTのやり取りから教師と 児童とのやり取りへと繋げていく授 業づくりをする。
  - 児童同士が積極的に英語を使ってコ ミュニケーションを図れる場面を設 定する。

## 【達成状況】

教職員の肯定的回答 100%

児童の肯定的回答 92.7%

- ・ICT を活用した発表を取り入れたことで、 児童が英語を考え、伝えようとする場を設 定することができた。
- ・ALT の出身地に関しての話やアメリカの 小学校の話を聞いたことで、日本と外国の 文化の違いに気付くことができた。

A9 児童は、宇都宮の良 さを知っている。

を知っている。」

⇒児童の肯定的回答 80%以上

- 生活科・社会科・総合的な学習にお ける校外学習, 地域人材との協力の中 で、地域や宇都宮に興味がもてるよう 学習を進める。
- 宇都宮市のイベントや行事などのお 知らせを配付する際には、宇都宮の良 さを知らせるようにする。
- 宇都宮学の副読本を活用し、宇都宮 の自然や交通、伝統文化に目を向けさ せるようにする。

#### 【次年度の方針】

- ・児童の肯定的回答率の向上を目指す。
- ・コミュニケーションツールの一つとして, タブレット型端末を利用して、自分の考え を表現できるようにする。
- ・児童同士が積極的に英語を使ってコミュ ニケーションを図れる場面や、全体に向け て英語を使って発表する場面を設定する。

## 【達成状況】

児童の肯定的回答 87.6%

・校外学習や地域の人達との交流を持つこ とはできなかったが、社会科の学習や総合 的な学習の時間の宇都宮学を通して、宇都 宮の良さや興味をもてるように工夫して学 習を進めた。

## 【次年度の方針】

- ・生活科・社会科・総合的な学習における校 外学習, 地域人材との協力の中で, 地域や宇 都宮に興味がもてるよう学習を進める。
- ・宇都宮市のイベントや行事などのお知ら せを配付する際には、宇都宮の良さを知ら せるようにする。
- ・宇都宮学の副読本を活用し、宇都宮の自然 や交通、伝統文化に目を向けさせるように

【数値指標】全体アンケー トの「私は、宇都宮の良さ A10 児童は、ICT機器 や図書等を学習に活 用している。

【数値指標】全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」

⇒児童の肯定的回答 85%以上

- ・ 児童が ICT 機器や図書資料を効果 的に使える授業づくりを行い, 児童が 機器や図書に触れる機会を設定する。
- ・ プログラミング学習を中心に、教職 員が ICT 機器等を授業の中で効果的 に使用することで、学習効果を高めて いく。

## 【達成状況】

児童の肯定的回答 85.6%

- ・ICT 機器や図書資料を効果的に使える授業計画をし、積極的に学校図書館司書業務嘱託員の授業への参画を図った。
- ・プログラミング学習を中心とした授業で、 ICT機器を使用したり図書資料を活用した りして児童が意欲的に学習できるようにし た。

## 【次年度の方針】

В

В

- ・児童がICT機器や図書資料を効果的に使える授業づくりを行い、児童が機器や図書に触れる機会を設定する。
- ・プログラミング学習を中心に、教職員が ICT機器等を授業の中で効果的に使用する ことで、学習効果を高めていく。

A11 児童は, 高齢者に対 する感謝やいたわり の心をもっている。

【数値指標】全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」

- ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上
- ・ 高齢者に対する感謝の気持ちをもて るよう、低学年の生活科での昔遊びや 高学年の家庭科での手縫い等、教えて いただく機会を授業の中に設定する。
- ・ 道徳の授業を通し、高齢者に対する 思いやりの心をはぐくむ指導をして いく。

## 【達成状況】

地域住民の肯定的回答 93.1%

・地域の方との交流の機会は設けられなかったが、地域の方への感謝の手紙を書く活動を通して、思いやりの心を育むことができるように指導したり道徳の授業を通して、各学年で高齢者に対する思いやりの心をはぐくむ指導を実施したりした。

#### 【次年度の方針】

- ・高齢者に対する感謝の気持ちをもてるよう,低学年の生活科での昔遊びや高学年の 家庭科での手縫い等,教えていただく機会 を授業の中に設定する。
- ・道徳の授業を通し、高齢者に対する思いやりの心をはぐくむ指導をしていく。

		1		
	A 12 児童は, 「持続可能	・ 休み時間ごとに教室の電気を消す、		【達成状況】 児童の肯定的回答 92.0%
	な社会」について、関	水を出しっぱなしにしないなど、身近		光重の骨足的回告   92.0%   ・各学級で、係活動として節電・節水など身
	心をもっている。	にできるエコ活動を推進する。		近にできるエコを実践できた。
	【数値指標】全体アンケー	・ 環境委員会の古紙回収, 栽培委員会	ļ	
	トの「児童は、環境問題や	の花壇の植え替えなどの活動を全校		・給食委員会による残食を少なくするため
	防災等の「持続可能な社	児童に周知することで、環境保全の意	ļ	の取組や環境委員会の古紙回収・エコキャ
	会」について、関心をもっ	識を高めていく。		ーップ回収などを全校に周知することで、全 
	ている。」	・ 各教科の授業を通して動植物の大切		校の意識を高めていった。
	⇒児童の肯定的回答	さを指導していく。		・生活科、理科、道徳の授業の中で、動植物
	8 5 %以上		ļ	を大切にしようとする意識を高められるよ
				うな授業づくりを心がけた。
			В	
				【次年度の方針】
				・休み時間ごとに教室の電気を消す, 水を出
			ļ	しっぱなしにしないなど、身近にできるエ
			ļ	コ活動を推進する。
				・給食委員会による残食を少なくするため
				の取組や環境委員会の古紙回収,栽培委員
			ļ	会の花壇の植え替えなどの活動を全校児童
				に周知することで、環境保全の意識を高め
			ļ	ていく。
			ļ	・各教科の授業を通して動植物の大切さを
				指導していく。
	A13 教職員は,特別な支	・ 校内での実態調査や校内支援委員会		【達成状況】
	援を必要とする児童	で上がってきた児童に対して、情報を		教職員の肯定的回答 100%
	の実態に応じて、適切	共有するとともに、個別の支援を行	}	・校内での実態調査や校内支援委員会で上
目	な支援をしている。	う。		がってきた児童に対して、情報を共有し、家 庭との連携を図り、支援の必要な児童に寄
	【数値指標】全体アンケー	・ 読み書き計算については, MIM, ステ		MCの建場を図り、文版の必要な光量に計   り添った個別の支援を行った。必要に応じ
指	トの「教職員は、特別な支	ップアップタイムなどを活用し、つま		て、かがやきルームの活用も検討した。
١.	援を必要とする児童(生	ずきに対応する。		・読み書き計算については、ステップアップ
す	徒)や外国人児童(生徒)			タイムなどを活用し、基礎基本の定着を図
	等の実態に応じて 適切な			った。 
学	支援をしている。」		В	【次年度の方針】
	⇒教職員の肯定的回答			・今後も校内での支援体制を整え、児童の実
校	90%以上			態に応じて特別支援学級への編入や、かが
				│ やきルームの利用などを検討していく。ま │ た,必要に応じて関係機関との連携を図る
の				・学習支援に関しては、朝の学習時間の活用
				や、習熟度別学習及びチームティーチング
姿				を行い、手厚い支援をしていく。
1	Í	1		

A14 教職員は、いじめが 許されない行為であ ることを指導してい る。

【数値指標】全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心にしどうしてくれる。」⇒児童の肯定的回答90%以上

・ いじめに関するアンケートや教育相談を有効に活用し、事実の把握に努めると共に、いじめは許されない行為であることを徹底できるよう、いじめゼロ運動等の様々な機会を生かして継続的な指導を行う。

## 【達成状況】

児童の肯定的回答 98.4%

- ・いじめに関するアンケートや教育相談の機会を有効に活用し、児童の実態の把握に努め、安心して学校生活が送れるように、常に指導にあたった。
- ・いじめゼロ運動の標語を家庭で児童と一緒に考えてもらうことで、保護者にもいじめ防止に対する意識づけを図った。

## 【次年度の方針】

В

В

В

・いじめに関するアンケートや教育相談の活用を継続し、いじめに関わる事実の把握に努める。また、いじめゼロ運動などの機会を生かして、いじめは許されない行為であることを継続して指導していく。

A15 教職員は,不登校を 生まない学級経営を 行っている。

【数値指標】全体アンケートの「先生方は、一人一人を大切にし、児童(生徒)がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」

⇒児童の肯定的回答 90%以上

- 日常生活の中で自己有用感を感じられるように配慮する。
- ・ 学級の中に居場所を感じられるように、お互いを認め合う機会を設けたり、温かな言葉かけを意識したりする。

## 【【達成状況】

児童の肯定的回答 98.1%

- ・日常生活や学習場面の中で,自己有用感を 感じられるような活動を意識した。
- ・学級に居場所感があり、安心して学校生活を送れるように温かな言葉かけを意識したり教育相談を活用したりした。
- ・行き渋りなどの兆候が見られた時には、保護者との連絡を密にしたり、校内不登校対策委員会を開催し関係機関につないだりした。

-----A16 教職員は, 外国人児

童生徒等の実態に応

じて、適切な支援をし

ている。

【数値指標】全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童(生徒)や外国人児童(生徒)等の実態に応じて、適切な支援をしている。」

- ⇒教職員の肯定的回答 90%以上
- 本人や保護者の困り感に寄り添い、 言葉の面で個別の支援が必要な場合は、外部機関や保護者と相談の場を設けるなどして、困難さを軽減できるようにする。
- ・ 外国の文化を認める国際理解や外国 人に対する差別などがないように人 権教育を指導していく。

## 【次年度の方針】

・教師が中心となり、児童同士が認めあえるような機会や雰囲気づくりを心掛ける。また、学級の係活動や特別活動の中で自己有用感を感じられる場を設ける。

#### 【達成状況】

教職員の肯定的回答 100%

・本人や保護者の困り感に寄り添い、言葉の面で個別の支援が必要な場合は、外部機関や保護者と相談の場を設けるなどして、困難さを軽減できるようにした。

## 【次年度の方針】

・本人や保護者の困り感に寄り添い、言葉の面で個別の支援が必要な場合は、外部機関や保護者と相談の場を設けるなどして、困難さを軽減できるようにする。また、外国語活動や道徳の時間を活用し、外国の文化を認める国際理解や外国人に対する差別などがないように人権教育を指導していく。

- 7 -

A17 学校は、活気があ り、明るくいきいきと した雰囲気である。

【数値指標】全体アンケー トの「私は、今の学校が好 きです。」

- ⇒児童の肯定的回答 90%以上
- なかよしタイム等の縦割り班活動の 充実。児童会主体のあいさつ運動、特 別活動や学校行事を通して、主体的に 「人とかかわる力」を育てる。

## 【達成状況】

児童の肯定的回答 92.7%

総割り班活動(なかよしタイム)やあいさ つ運動、いじめゼロ運動などを通じ、異学年 交流により「人とかかわる力」を伸ばす児童 が多く見られた。

В

## 【次年度の方針】

・児童会主体のあいさつ運動を継続して行 い、明るい雰囲気づくりに努める。

特別活動や学校行事を通して, 主体的に「人 とかかわる力」を育てられるように努めて いく。

A18 教職員は,分かる授 業や児童にきめ細か な指導を行い、学力向 上を図っている。

【数值指標】

全体アンケートの「先生 方は、勉強を分かりやす く, 一人一人に丁寧に教え てくれる。」

- ⇒児童の肯定的回答 85%以上
- A19 学校に関わる職員 全員がチームとなり、 協力して業務に取り 組んでいる。

#### 【数值指標】

全体アンケートの「学校 に関わる職員全員がチー ムとなり、協力して業務に 取り組んでいる。」

⇒教職員の肯定的回答 90%以上

- ・ 児童の実態に即した内容の指導のエ 夫を行う。
- 全校体制で、課題の明確な提示や分 かりやすい発問・板書を工夫し、児童 一人一人が分かる授業を目指す。

【達成状況】

児童の肯定的回答 98.1%

・前年度から0.4ポイント肯定的回答率が 下がった。授業では、めあて・まとめ・ふり 返りを行い、分かりやすい発問や構造的な 板書,対話的な活動を取り入れることで「分 かる授業」の展開に努めた。

В

В

## 【次年度の方針】

- ・とちぎっ子学習状況調査や全国学習状況 調査の結果を十分検討し、児童の実態に即 した内容の指導や形態の工夫を継続する。
- ・児童の発達段階及び実態に即して、習熟度 別少人数, TT など学力向上実践加配が有効 に指導に関わることができる学習形態を促 【達成状況】 進する。

教職員の肯定的回答 100%

- ・前年度と変わらず100%の達成状況。校 務分掌や学習指導、児童指導等において、各 主任を中心に OJT を実施できた。
- ・個々の役割を行うだけでなく、校務分掌等 の垣根を越えて、相互協力して業務に当た ることができた。

## 【次年度の方針】

・現在の職場環境や協力体制を維持し、互い に協力しながら児童に寄り添う視点で業務 に当たる。

校務分掌や学習指導、児童指導等に おいて、OJTを実施していく。

個々の役割と責任を明確にした上 で、同僚に対する気配りをしながら、 相互に協力して業務を行う。

A20 学校は,教職員の勤 務時間を意識して,業 務の効率化に取り組 んでいる。

【数値指標】全体アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」

⇒ 教 職 員 の 肯 定 的 回 答 80%以上

- ・ 電子掲示板による連絡、会議資料の デジタル化により、業務の効率化を図 る。
- ・ 教職員自身が出退勤管理を適正に行 うとともに、月1回のリフレッシュウィークを設け、定時退勤を推進する。

## 【達成状況】

教職員の肯定的回答 83・3%

- ・教育情報システムの電子掲示板を有効活用し、打合せの回数を減らすことで業務の 効率化を図ることができた。
- ・退勤時刻を決め、全職員で共通理解を図ることで、超過勤務時間の減少に繋げることができた。

## 【次年度の方針】

В

- ・日課表を工夫し、児童下校後に学級事務や 校務分掌に取り組む時間を増やす。
- ・リフレッシュウィークを各自が有効活用 し、定時退勤への意識を更に高めていく。
- ・打合せや会議の内容を精選し,回数を削減する

A21 学校は、「小中一貫 教育・地域学校園」の 取組を行っている。

## 【数值指標】

全体アンケートの「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」

⇒児童・教職員の肯定的回 答85%以上

- ・ 地域や学校園と連携した「あいさつ 運動」を継続して行い年3回小中合同 で実施する。
- ・ 6年児童が中学校の合唱コンクールに参加したり、クリーンアップキャンペーンに中学生が来校し、地域住民や保護者、小学生とともに校庭清掃を実施したりして、小中が連携した取組を実施する。
- ※ 上記の点は、今後の感染状況により、変更の可能性あり。
- ・ 学習や体力の向上,図書館教育,食 育など様々な領域において学校園で 取り組んでいることを児童に還元し, 周知に努める

A22 学校は、地域の教育 力を生かした特色あ る教育活動を展開し ている。

## 【数值指標】

全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上

- ・ あいさつ運動やクリーンアップキャンペーン、地区文化祭、防災訓練等、地域と相互に協力しながら教育活動を行う。
- ・ 地域協議会やPTA理事会等でそれ ぞれの意見を吸い上げ、児童の指導や 教育活動の向上に活かす。
- ・ 学習内容に応じて、地域人材や企業 等を活用した授業を展開する。
- ※ 上記の点は、今後の感染状況により、変更の可能性あり

## 【達成状況】

児童の肯定的回答 88.1% 教師の肯定的回答 100%

・今年度は、感染所の拡大により、活動ができなかった。

#### 【次年度の方針】

- ・感染症の状況を考慮しながら,小中合同あいさつ運動や中学校訪問等を通して,中学校への理解を深め,明るい希望をもって中学校に進学できるようにする。
- ・地域学校園の各部会での決定事項を教職 員間で共通理解をし、指導に生かす。

## 【達成状況】

児童の肯定的回答 94.3%

- ・感染症の広がりにより、実施できないものが多かったが、 形態や時期を工夫して一部 実施した。
- ・学習内容に応じて地域人材や企業等を活 用した授業を一部実施できた。

## B 【次年度の方針】

- ・感染症の拡がりに考慮しながら、あいさつ 運動や地区文化祭、地区防災訓練などの各 行事において、地域と相互に協力しながら、 より充実した教育活動を行う。
- ・地域協議会や PTA 理事会において学校からの情報を発信し、地域や保護者の意見を吸い上げ、協力体制を整備する。

A23 学校は、家庭・地域・ 企業等と連携・協力し て、よりよい児童の育 成に取り組んでいる。

#### 【数值指標】

全体アンケートの「学校 は、家庭・地域・企業等と 連携・協力して、教育活動 や学校運営の充実を図っ ている。」

- ⇒保護者の肯定的回答 85%以上
- A24 学校は、利用する人 の安全に配慮した環 境づくりに努めてい る。

【数値指標】全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」

⇒保護者の肯定的回答 85%以上

- ・ 地域コーディネーターを活用して、 教育活動全般にわたり協力を得られ る人材を増やしたり、学校園で協力し て人材確保に努めたりする。
- ・ 街の先生・地域の人材の参画を得た 授業や、企業の出前講座等を積極的に 行い、地域の教育力をさらに学校に取 り入れていく。
- ※ 上記の点は、今後の感染状況により、変更の可能性あり
- ・ 教職員による校内施設等の定期的な 安全点検を行い、結果の共通理解を図 るとともに、不備な点は早急に対処す る。
- ・ 校内や学校周辺で危険が予想される ときには、メールやホームページ、学 校だより等により周知を図るととも に、学校の取組を積極的に発信する。

A 25 学校は, 学習に必要な I C T 機器 や図書 等を整えている。

#### 【数値指標】

全体アンケートの「児童は、ICT機器や図書等を 学習に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上

- ・ ICT機器を学習内容に応じて活用 しやすいように整備する。
- ・ 児童や教師のニーズ、学習や発達段 階に応じた図書を整備していく。

## 【達成状況】

保護者の肯定的回答 95.5%

・感染症の拡がりにより、十分に地域コーディネーター及び地域の人材を十分に活用することはできなかった。

# 【次年度の方針】

・感染症の状況に配慮しながら、地域の人材を活用し、授業に取り入れられるように参画の仕方を工夫する。

## 【達成状況】

保護者の肯定的回答 98.3%

- ・安全点検の日を設定し、全職員で学校敷 地内の点検場所を分担して、施設設備等の 点検を計画的・組織的に行った。また、日 常生活の中でも危険な箇所はないか目を配 り、早期発見に努めた。
- ・施設設備等に不備がある場合は、学校業務や機動班、市教委等に依頼し早急に対処 した。
- ・保護者や地域からの情報も活用し、児童 の安全に関して全体での指導が必要な場合 は、早急に共通理解を図り、対応した。
- ・緊急性の有無や連絡の内容により、メール配信や文書配付を使い分けて、保護者や 学校関係者に周知するとともに協力を要請 した。

## 【次年度の方針】

В

Α

- ・安全点検を計画的に実施し、不備の早期 発見と早急な対処に努める。
- ・保護者や学校関係者に向けての、速やかな情報発信により、協力の依頼と安全確保に努める。

#### 【達成状況】

教職員の肯定的回答 100%

・学年の実態や発達段階に応じて、ソフトや ICT機器を整備し、活用できた。

## 【次年度の方針】

・学習活動において、タブレット端末の有効な活用を目指す。また、実践内容や教育的効果を積極的に発信する。

B 1 「魅力ある学校づくり 地域協議会」を有効活 用し、学校経営の充実 を図る。

【数値指標】全体アンケー トの「学校は、学校で課題 となっていることを積極 的に説明し、協議会の意見 を反映している。」

⇒地域住民の肯定的回答 85%以上

学校で課題となっていることを積極 的に説明し、協議会の意見を反映する とともに, 一体となって課題解決にあ たる。

・ 地域人材を活用したより効果的な体 験活動を実施し,学校教育の充実に努 める。

## 【達成状況】

地域住民の肯定的回答 96.6%

- ・今年度はコロナ禍の影響により、予定した 4回のうち2回の実施となったが、学校経 営方針や課題を説明し、地域と学校が連携・ 協力した活動を実施することができた。ま た、授業参観や給食視察を通して気付いた ことを聞くことができ、教育活動に反映す ることができた。
- ・あいさつ運動や登下校指導, 地区内の環境 点検等で、地域の方々の積極的な協力を得 ることができた。

## 【次年度の方針】

В

В

- ・コロナ禍の影響で実施できなかった, 地域 人材の活用を推進し、学習支援や地域との 交流など効果的な体験活動を実施する。
- ・協議会と連携を図り、学校教育がさらに充 実するよう努める。

## 【達成状況】

児童の肯定的回答 91.1%

- ・読み聞かせや落ち葉はき、募金活動などの ボランティア活動があるときには、各学級 で積極的に呼びかけを行い、啓発を図るこ とができた。
- ・ボランティア活動の様子を各種便りやホ ームページで紹介することで、意欲を高め ることができた。
- ・各学級で、係活動や当番活動を工夫するこ とで、意欲的に取り組む姿が見られた。

- ・ボランティア活動について, 児童会が主体 となって朝会で呼びかけたり、活動の様子 を学校だよりや学校ホームページなどで紹 介したりして、意欲を高めていく。
- ・道徳の時間などでボランティアの意義や
- ・係活動や当番活動を通して、働くことの意 義を学び、喜びを味わわせる。

B2 児童は、学校生活の 中で, みんなのため に、進んで活動したり 働いたりしている。

【数值指標】学校独自質問 の「わたしは、お手伝いや 係の仕事、ボランティア活 動などをしている」

⇒児童の肯定的回答 90%以上

- ボランティア活動について、児童会 が主体となって朝会で呼びかけたり、 活動の様子を学校だよりや学校ホー ムページなどで紹介したりして、意欲 を高めていく。
- 道徳の時間などでボランティアの意 義や助け合うことの大切さを教える。
- ・ 係活動や当番活動を通して、働くこ との意義を学び、喜びを味わわせる。

題

本

校

ഗ

特

色

課

- 助け合うことの大切さを教える。

B3 家庭学習を続ける 習慣が身に付いてい る。

【数値指標】学校独自質問の「わたしは、学年の目標時間(学年×10+10分)以上宿題や自主学習をしている。」

⇒児童の肯定的回答 85%以上

- ・ 毎日の宿題で基礎学力の定着を図る。
- ・ 学年ごとに、発達段階に応じた自主 学習の内容と方法を具体的に示し指 導する。
- ・ 家庭学習の定着の意義や学校での指導内容を、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、より一層の理解や協力を得られるように努める。
- ・ 全校で共通した形式の家庭学習カー ドを活用して指導する。
- ・ 「家庭学習強調週間」を実施し、期間中の家庭学習カードに、児童が目標を設定して取組について振り返ったり、保護者のコメントをもらったりする欄を設け、取組の徹底・充実を図る。

B 4 児童は、本をよく読 んでいる。

【数値指標】学校独自質問の「わたしは、本を読んでいる」

⇒児童の肯定的回答 80%以上

- 読書の質の深化を図るような図書室 利用を工夫する(学校司書と連携した 読書指導の実践・個に応じた選書支援 (読書コンシェルジュ)・学校のオア シスとしての環境づくり、蔵書の充 実)。
- 「本はともだちプロジェクト」の実践、家読(うちどく)の奨励等を通して、家庭読書の充実を図る。
- ・ 多読者の表彰の場を継続して読書へ の意欲を高める。
- ・ 読んだ本の感想を記録・蓄積し、共有する機会をつくることで、読書の幅を広げる。
- ・ けやき読書週間中は、朝の学習を読書、また、家庭学習で読書の宿題を出し、集中して読書に取り組む。
- ・ 学校ホームページに読書活動の様子 をアップし、保護者や地域の方に取組 が伝わるように発信していく。

## 【達成状況】

児童の肯定的回答 86.0%

- ・「家庭学習の手引き」や「家庭学習カード」 を活用し、個に応じた指導を行ってきたが、 個人差が見られた。
- ・「家庭学習強調週間」を実施し、家庭も巻き込んだ取り組みを行い、充実を図った。

## B【次年度の方針】

- ・引き続き、家庭学習の定着の意義や継続指導の重要性を家庭に伝え、協力を呼び掛けていく。
- ・「家庭学習強調週間」の回数を見直し、家庭とのさらなる連携を図る。
- ・家庭での生活習慣や学習環境の改善について啓発していく。

## 【達成状況】

児童の肯定的回答 80.9%

- ・国語の授業に関連した本を,授業の際に紹介したり,児童が自由に読めるような環境づくりを行ったりすることで,読書意欲を高められるようにした。
- ・図書館だよりで本の紹介を多く掲載する ことで、読書意欲の向上を図った。
- ・図書委員会を中心として、家読、読書郵便、 お話給食、読書スタンプラリーなどの活動 を通して読書の習慣化を図った。
- ・学校ホームページに読書活動の様子をアップし、保護者や地域の方に取組が伝わるように発信した。

#### 【次年度の方針】

B

- ・「本はともだちプロジェクト」の実践、家 読(うちどく)の奨励等を通して、家庭読書の充実を図る。
- ・読書の質の深化を図るような図書室利用を工夫する(学校司書と連携した読書指導の実践・個に応じた選書支援(読書コンシェルジュ)・学校のオアシスとしての環境づくり、蔵書の充実)。
- ・多読者の表彰の場を継続して読書への意欲を高める。
- ・読んだ本の感想を記録・蓄積し、共有する 機会をつくることで、読書の幅を広げる。
- ・けやき読書週間中は、朝の学習を読書、また、家庭学習で読書の宿題を出し、集中して 読書に取り組む。
- ・学校ホームページに読書活動の様子をアップし、保護者や地域の方に取組が伝わるように発信していく。

- 12 -

## [総合的な評価]

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・今年度は、宇都宮市共通の質問25問と、学校独自の質問4問でアンケートを実施した。「肯定的回答割合が昨年度よりも5ポイント以上増加、または市全体より5ポイント以上高い」の項目を取組の成果が認められたものとした。一方、「肯定的回答割合が昨年度よりも5ポイント以上減少、または、肯定的回答割合が80%未満」の項目は、を取組の成果が十分ではなかったものとした。
- ・コロナ禍の影響により、学校生活や学習活動において様々な制限がある中、児童は明るく元気に過ごしていた。A2「児童は、思いやりの心をもっている。」は、児童・保護者・ともに評価が高いことから、道徳の授業や日常生活の中で、思いやりの心をもつことの大切さを伝え育むことができたと考えられる。また、A17「学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」は、児童・保護者の評価が昨年度を上回っていることからも児童は学校生活に満足しており保護者も児童の思いを感じ取っていることが伺える。
- ・今年度は、「自分の思いや考えをもち、進んで伝え合い、学び合う児童の育成」を重点目標として学習指導に取り組んできた。新型コロナウイルス感染防止対策のため、伝え合う活動に制限がある中、児童は落ち着いた態度で授業に臨み、意見交換の方法を工夫して進んで学習に取り組むことができた。A 1 「児童は、進んで学習に取り組んでいる。」でも児童・保護者に高い評価を得ることができ、取組の成果が表れていると言える。今後も基礎学力の定着を図るために、習熟度別指導や少人数指導等を継続するとともにさらに工夫を図っていきたい。
- ・数値指標を下回った質問は、A3「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」である。児童の肯定的回答割合を数値指標としたが、O. 6ポイントほど下回った。本年度の取組をさらに継続・充実させていきたい。また、保護者や地域住民の評価が教職員よりも低いところも課題である。学校での取組や児童の様子について学年だより・ホームページなどで情報発信し、保護者や地域の理解を得られるようにしたい。
- ・ICT機器については、今年度も学習効果を上げるために書画カメラを使って資料を提示したり、調べ学習においてパソコンで情報収集したりするなど活用を図っている。次年度からは、児童一人に一台のタブレット端末が導入されるので、この様子を、授業参観や学年だより・ホームページなどで情報発信し、保護者の理解を得られるようにしたい。また、読書については、朝の読書の時間に集中して本を読むだけでなく、短時間でも時間を見つけて進んで本を読む姿も見られるなど、学校では進んで読書に取り組む児童が多い。家庭においても読書の充実を図れるよう保護者と連携した取組を継続していきたい。
- 〇小中一貫教育・地域学校園の取組については、今年度はコロナ禍の影響により、積極的な交流を図ることは難しい状況であった。しかし、A 2 1 「学校は、小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。」に対する保護者や児童の肯定的回答割合が高いことから、今後も 連携の方法を工夫し、小中 4 校の連携強化(積極的な情報共有)と児童生徒の実態に即した取組の推進を継続していきたい。
- ・本校は保護者・地域の方々と連携を図り、協力や支援を得て充実した学校行事や体験活動などを実施してきた。しかし、 今年度はコロナ禍の影響により、計画していた活動が実施できない状況が続いた。A22「学校は、地域の教育力を生か した特色ある教育活動を展開している。」は、地域住民のみ肯定的回答割合が昨年度を下回る結果となった。これは、支援 したくてもできない地域住民の思いが表れているものと考えられる。学校を支えてくださる方々の思いを受け止め、今後 も多くの方々の支援を得て、楽しく安全な学校生活の充実を図っていきたい。

## 7 学校関係者評価

- ・宇都宮学や ICT 機器の活用について、保護者の認知度が低いので積極的な情報発信をお願いしたい。
- ・全体的に課題に対して方向性を設定し、それに向けて取り組んでいる学校の様子がうかがえる。また、保護者が地域の 方々以上に意識を高めていかないといけないと感じた。
- ・設問 15 に「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」とあるが、不登校はその子の心のバランスを保つために必要な場合もあると感じるので、この設問はどうかと疑問に思った。
- ・各項目に対し、児童・保護者・教職員・地域住民とも肯定的回答が多い。学校運営が正しく行われている結果であり、今後も継続していただきたい。
- ・学校側は改善努力が見られ、児童はこれにこたえて努力の結果が出ていると思う。今後は学習指導にさらに力を入れてほしい。
- ·ICT機器の活用や英語の授業等、これから世界に生きる児童のために重要なことと思う。学校に頑張っていただきたい。
- ・学校と地域が密接にコミュニケーションを図っていることが大変良いと思う。
- ・設問3の「児童は、きまりやマナーを守って生活をしている。」は、地域住民と児童の肯定的回答が市全体の平均を下回っているので今後の課題か。
- ・今年度はコロナ禍の影響で、地域住民は児童や学校の様子は一部分しか見えず、その機会も少なかったので良い評価はできていないと思う。
- ・地域住民としてアンケートに答えることができるのは、教育活動のほんの一部分なので申し訳なく思う。評価書を拝見 し、教職員の指導や努力に感謝している。
- ・全項目の達成状況の評価に、成果や反省点が具体的に分かるように文章表現を添えられている。それを受けて次年度に向けた方針を明確にしており、このようなきめ細やかな評価の継続が学校の確かな前進に繋がっていると思う。
- ・教職員の精一杯の日常が見えるような評価書であった。

## 8 まとめと次年度へ向けて(学校関係者評価を受けて)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

#### 【学校経営】

- ・今年度と同様に、学校教育目標を具現化するために「宮小けやきプラン」を策定し、学習・学校行事・日常の生活・家庭 や地域との連携の場など、様々な場面で具体的な取組を推進し、「本気で学ぶ子・元気で遊ぶ子・正しく生きる子・喜んで 働く子」の育成を目指していきたい。
- ・「宮小の子は教職員、家庭、地域みんなで育てる」を理念とし、学校経営にあたっていきたい。
- ・次年度も各種たよりの発行や学校ホームページ等を通して積極的に情報を発信し、学校の取組を理解していただくととも に家庭や地域と連携を図り協力や支援を得られるように努めていきたい。

#### 【学習指導】

- ・学習状況調査の結果を十分検討し、児童の実態に即した内容の指導や形態の工夫を継続する。また、児童の発達段階及び実態に即して、習熟度別少人数、TT など学力向上実践加配が有効に指導に関わることができる学習形態を促進する。
- ・家庭学習の定着の意義や継続指導の重要性を家庭に伝え、協力を呼び掛けて家庭とのさらなる連携と学習内容の充実を図っていきたい。
- ・読書の質の深化を図るような図書室利用を工夫し、学校司書と連携した読書指導の実践や個に応じた選書支援を実施し、読書への意欲を高めていきたい。

#### 【児童指導】

- ・「宮小3つの約束」「宮小こどものきまり」「学びのマナー」を活用し、教職員の共通理解を図りながら家庭や地域と連携し、 指導の充実を図っていきたい。
- ・児童一人一人の特性に対応できるよう、個に応じた継続的な指導や支援に努める。
- ・今年度実施したあいさつ運動を継続すると共に、さらにあいさつに多くの児童が関わることのできるような活動を工夫していきたい。

## 【健康(体力・保健・食・安全)】

- ・各学年の教科体育において十分な運動量を確保するとともに指導法を工夫し、個々の健康や運動への関心を高め、体力の 向上に努める。
- ○水泳や縄跳びなどのがんばりカードの活用や健康教育・食育に係わる便りの発行やイベントの実施など地域学校園共通の 取組を次年度も継続させていく。